

第5回紙・パルプ(洋紙・板紙分野)の物流における生産性向上
及びトラックドライバーの労働時間改善に関する懇談会
議事概要

1. 日時

令和2年2月26日(水)10時00分～12時00分

2. 場所

中央合同庁舎第3号館4階 特別会議室

3. 議事概要

- (1) 議題1「1. 紙・パルプ物流(洋紙・板紙分野)の課題解決の方向性等についての取組実施報告」、議題2「ガイドライン(案)について」について事務局より説明を行い、意見交換を行った。
- (2) 各委員からは、以下のような発言があった。

【議事1. について】

- 物流のシステムを構築する際、受発注システム、トラック動態管理システム、予約システムなどがバラバラに動いており、それぞれの情報が連携されていないことがよくあるため、きちんとシステム連携させることは重要だ。
- ファックス送信などアナログになっていた段ボール受発注情報を、システムに切り替える動きがある。商流の受発注システムだけでなく、物流情報も紐づける予定で、待機時間等の実態の見える化にもつながり、取引先も含めた関係者間での改善活動につながればよいと考えている。現状では、物流情報と商流情報が連動していないケースが多いため、物流の実態について、リアルタイムに共有化できる取り組みは画期的であり、重要である。
- 発着荷主はしっかりとしたコミュニケーションを確保することが重要。関係者が集まって考えることで、改善できる事項が明確化される。
- 車両の位置情報と併せて車両の積載量、積載貨物が見える化できれば、配送ロットが小さい場合でも、マッチングが円滑に進み、共同物流も進むのではないかと。

【議事2. について】

- 荷主は「発」荷主も「着」荷主もいるため、ガイドラインのなかで発荷主も着荷主も該

当する記載箇所は「発着荷主」ときちんと記載すべき。

- 改善基準告示は、トラック運送事業者のみならず、発着荷主も無理な運行とならないように取引条件で考慮しなければいけないので、荷主も知っておかないといけないという趣旨の注釈を入れるべき。
- 洋紙代理店の共同輸送の実証実験は今年度できなかったが、引き続き共同保管などの可能性を探りながら検討を進めていきたい。また、最低ロットを明確化するなどの取り組みも必要だ。
- ロール紙の荷降ろしの際に「俵二段積み」の「割り落とし」と言われる危険な附帯作業がある。このような危険な附帯作業については安全に行えるように関係者で連携して改善していく必要がある。
- ガイドラインには、附帯作業調査、リードタイム調査など、アンケート調査結果も挿入することで、活用する際の参考となる。
- 各民間調査でトラックドライバーが大幅に不足するという将来予測もでていることから、ガイドラインの文中には、「物が運べなくなる」という物流意識をもっと強調すべきである。
- これまで「営業マンがなんでもかんでも受け入れてきた背景があり、営業マンを放置した管理者の責任も重大」という視点は重要。
- ユニットロードの標準化という観点から、メーカーサイドからも段ボールのケースサイズを効率的な物流となるように集約化すべきではないか。とあるメーカーでは、パレットサイズを考慮した段ボールケースサイズや商品アイテムサイズを設計するなど、積載効率を最大化するための商品設計まで踏み込んでいる。
- ガイドライン発出はあくまでもスタートに過ぎない。現状のままでは物が運べなくなる事態が必ず訪れる。これを回避するためには関係者が本気で改革していくことが求められている。

以上

(文責：事務局)